笠利（かさり） Kasari
城前田・里前・金久
E
N
S
W
大笠利港
18 辺留城古墓
22 トヨミネオゴラ
カトリック教会墓地 20
21 ソテツバテ
601
辺留集落へ
ウティゴと風葬墓
小浜海岸と奇岩石
4
6
5 トントン岩
★公園
大島奉行所跡地 17
19 大笠利聖ミカエルカトリック教会（アンゼラスの鐘）
★笠利聖母保育園
笠利3区公民館
★13 門柱
金久看板位置
★笠利駐在所
23 アモレマタ
1 ウーバルグスク
笠利郵便局
2 ソテツバテ
里前看板位置
城前田看板位置（笠利1区公民館）
石敢當 12
笠利小学校
赤木名へ（外金久集落）
16
24 カサン鶴松の碑
601
用集落へ
★笠利 2 区公民館
里前集落内の道 11
10 アムィゴ
3 赤嶺グスク（現笠利中学校）
★9 フィウゴ
7 シリダのトフル墓群
15 秋葉神社
14 神様のアムィゴ
笠利

### ウーバルグスク

台地一帯はソテツ畑が広範囲に残る見晴らしの良い景観である。平成9（1997）年に県道拡幅工事に伴い発掘調査が行われ、14世紀頃の中国の焼き物「青磁」や徳之島産の「カムィヤキ」、そしてジュゴンの骨で作られた「骨製サイコロ」などが出土した。当時、琉球や中国、韓国、九州との航海が盛んだったことから、この遺跡も何らかの関与が考えられる。

### ソテツバテ（ソテツ畑）

奄美のシマ（集落）には島人が命をつないできた大切な代表植物としてソテツがある。ソテツは山の椎の実、米などとともに貴重なタンパク源で、葉は水田の緑肥や装飾品に使われ、幹からもデンプンを取ることができる。畑の境界、山畑の土留、防風林、観葉植物として島人にとっては関わりが深くシマの景観にも欠かせない植物である。

現在は、外来のカイガラムシの被害により、ソテツは全滅している。

### 赤嶺グスクと旧赤嶺集落跡

標高約20mの赤嶺グスクは島口で「ハンニャグスク」と呼ばれる。中世の山城跡があり、赤嶺集落として20数軒の家があったが1区の城前田集落と2区の里前集落に移転し、跡地に現在の笠利中学校が創立された。笠利中学校校区は用集落から須野集落までの子供たちが通う中学校である。台地一帯には屋敷跡や神道、イジュンゴなどが今も残る。

### 小浜海岸と奇岩石（子供の遊び場所）

発達したリーフが広がり、入り組んだ地形に砂丘を形成し、海浜と段丘をなす美しい海岸が広がる。台地一帯は琉球石灰岩からなり、海岸の大小のコモリ（穴）は子供たちの格好の遊び場であった。また、海岸には様々な形をした奇岩も多く、台地の「ハマジョグチ」（浜への出入口）から見る風景は日本画家田中一村の作品にも見られる。

### トントン岩

古老たちが昔よく遊んだ場所とする代表的な岩で「コンコンと軽く叩けばトントンと響く岩がある」と言い、いつの日からか「トントン岩」と呼ばれるようになった。今はこの岩を叩いて遊ぶ子供たちの姿を見ないが、昔の子供たちは叩けば答えてくれるからよく遊んでいたという。

### ウティゴと風葬墓

ウーバルの下には水が流れており、今もタンクがある。昔はここの水を汲んでいた。崖下にあるため汲みに行くのは潮が引くときに合わせて海岸から行った。崖下（ガケンシャ）には風葬墓もあり、人骨もあった。恐ろしい場所でもあった。ケンムンも出るという。シマンチュ（島人）からは畏れられている場所のひとつである。

### シリダのトフル墓群

ウーバル台地は笠利集落から用集落に至る北側、標高約16mの台地をなす。

シリダのトフル墓群はこの台地の西側中央部より北側の崖下に位置し、6基以上で墓群をなす古墓である。琉球石灰岩に横穴を掘り、中には遺体が安置され、7年忌に洗骨され甕に納骨されていた。一族の墓地として昭和30年代ごろまで使用されていた。

### 島唄、島口、シマ踊り

島の人達の日常会話は島口で、集落独自のイントネーションによる言語を話している。農耕は中世以降から行われ、そのころから沖縄の影響を受けたシマ（集落）の収穫祭や宗教的行事を司るノロ制度がシマジマの唄や踊りにも大きく影響した。城前田、里前、金久の3集落とも歌と踊りが盛んでカサン（笠利）唄として知られる。

### 笠利１区（城前田）（しろまえだ）※方言名：ウシロ

奄美大島北東部の太平洋に面した大笠利地区。大笠利地区は城前田、里前、金久の三集落で形成されています。集落行事は、地区の秋葉神社で年末年始の神前祭が行われ、旧暦6月17日の六月燈では三集落合同で踊りが奉納されます。また、現在の笠利中学校がある高台は赤嶺が丘（地元呼称ハンニャ）と呼ばれ、以前は集落が形成されていました。

**フィウゴ（大井川）**

フィウゴは里前集落の南西側、大井ダムから東側に流れ、笠利小学校東側横で北に90度に蛇行し、城前田集落北側から大きく東に曲がり海に流れている。したがって、3集落がフィウゴの水を利用している。上流は飲み水用としての水汲み場、中流は野菜やイモなどを洗う場所、下流は洗濯や水浴びと3集落のみんなが共同で使い分けていた生活用水である。

**公民館後ろのアムィゴ**

公民館周辺の東側から南側にかけてはすいでんが広がっており、人々は畦道を行き来していた。そのため城前田集落や金久集落との境界は水田の畦道で分けられており、入り組んでいる。公民館と赤嶺城の崖下にあたる低地は泉がわき出ており、神様が禊(みそぎ)をする場所として戦後間もない頃まで使用されていた。平成27(2015)年に集落民で祠を建築、今でも聖地として守られている。

**里前集落内の道**

公民館前の道や集落内の主な道は水田や畑の畦道を皆が利用していた。そのため、畦道を広くし、道路として利用するために皆が少しずつ土地を寄贈して道を広げた。

その後、畑や田んぼであった場所を整地し、家を建て始めたため城前田や金久との境界もブロックごとに入り組んだ状態になっている。

**石敢當**

水田や畑の畦道を広げて作った集落内の道は狭く、やや迷路のようになっている。集落内にはもともと道として利用されている道路もあり、T字路になっている 2 か所に石敢當がある。

石敢當は直進する魔物が丁字路や三叉路などで突き当りの家屋に侵入するのを防ぐため、その突き当りに置いて魔物をぶつけて消し去るためのものとされている。

**海岸にある2つの門柱**

大笠利港はリーフを埋め立て、港と港公園を造成している。そのため、旧海岸線には防波堤が残り、港に通る入り口部分は旧防波堤を切り取っている。

その脇に明らかに門柱と思われる石柱がある。聞き書き調査によると、やはり門柱で以前、茅葺の小学校の門から学舎・公民館・大笠利文化センターの門柱として使用され、最終的にここに移動となったとされる。

**神様のアムィゴ**

集落西側にあるおがみ山の背後・迫田（サクダ）には泉があり、そこに神様が禊（みそぎ）をする場所が今も残っている（神様とはユタ神と考えられる）。

ノロは聖地などの司祭や五穀豊穣などを司り、ユタは死者儀礼や死霊供養に密着するなど、個人の易を占う。神祭を行う際には禊のアムィゴと海で身を清める。

現在は草に覆われ行くことが困難である。

**秋葉神社（おがみ山）**

秋葉神社のはじまりは笠利の城前田の小浜に江戸期の慶長以後に笠利奉行所の仮屋が置かれた頃とされる。明治41（1609）年におがみ山に移転し明治神社として祀られたが、昭和46（1971）年に大笠利の氏神を祀る秋葉神社として現在地に祀られている。

**カサン鶴松の碑**

明治13（1880）年に没したカサン鶴松は、大島紬の織姫で、即興歌人としても広く知られる。薬砂糖としての黒糖隠蔽を取り調べる薩摩藩の役人を当意即妙な対応で退散させ村人を救った話や宇宿集落の実和嘉との歌問答の話が伝わっている。その「カサン鶴松」を偲んで石碑が建立されている。

**笠利２区（里前）（さとまえ）※方言名：メー**

奄美大島北東部の太平洋に面した大笠利地区。大笠利地区は城前田、里前、金久の三集落で形成されています。集落行事は、地区の秋葉神社で年末年始の神前祭が行われ、旧暦 6 月 17 日の六月燈では三集落合同で踊りが奉納されます。また、現在の笠利中学校がある高台は赤嶺が丘（地元呼称ハンニャ）と呼ばれ、以前は集落が形成されていました。

### 大島奉行所跡地

慶長14（1609）年に大島が薩摩の侵攻を受け、笠利に初代奉行が置かれた。初代奉行には法元仁右衛門が慶長18（1613）年に就いた。

サンゴの石垣に囲まれた屋敷跡は広く、ここで22年間奉行が入れ替わりながら大島の統括の拠点として使われていた。このサンゴの石垣が歴史を今に伝えている。

### 辺留城古墓

辺留城の調査は道路拡幅工事に伴い平成16年度～平成19年度まで行われた。

東側に舌状に突き出た標高約14m、面積約8400㎡の台地をなす。その先端部分にはビーチロックでできた「箱型石棺墓」が4墓あり、江戸時代の島津藩の仮屋蔵方目付・有馬十蔵や島役人の墓地がある。

### 大笠利聖ミカエルカトリック教会

明治36（1903）年に，中村長八神父によってキリスト教の布教が始まり、大正4（1915）年に大笠利教会聖堂が完成した。昭和26（1951）年に現在地へ移動し、昭和47（1972）年に大笠利聖ミカエル教会の聖堂が完成。現在の聖堂は令和6（2024）年に新たに建て替えられた。

戦時中に不明になった「アンゼラスの鐘」は、昭和59（1984）年12月10日に里帰りした。

### カトリック教会墓地

奄美では小さな集落にもその中心地に教会がある。

笠利集落の海岸近くにはカトリック信者の墓地がある。青い空、青い海が眩しい景色の中に、整然と区画され、白い十字架が並ぶ光景は、なぜか異国情緒を漂わせている。

### ソテツバテ（ソテツ畑）

辺留城の立地する標高約14mの台地は、殆ど大小の畑になっており、いくつもの畑の区分には風よけ、境界としてのソテツが植栽されている。ソテツは貴重なタンパク源であるため、畑のサツマイモと同様に周囲のソテツも実（ナリ）を得るためのものである。遺跡の台地にあるソテツバテはシマの風景でもある。

現在は，外来のカイガラムシの被害により、ソテツは全滅している。

### トヨミネオゴラ

昔、トヨミネという老人が「水捌けをするために造った川」がトヨミネオゴラである。ガラッパ（河童）やケンムンの出没が語られ、鬱蒼とした場所であったため人々から畏れられた場所であった。

### アモレマタ / マタゴ

奄美では天降女、亜母礼女（あもれおなぐ）と呼ばれる伝説がある。一般的には地上で男性を見つけると、ニヤニヤと笑って妖艶に誘惑する。男性がこの誘惑に負けると、命を奪われてしまう。

そのような天女が水浴びしたと伝えられる場所は、現在は整地して畑になっているが、以前は鬱蒼とした空間が広がり畏れられる場所であった。

### カサン鶴松の碑

江戸末から明治初頭まで笠利で暮らしていた即興歌人である。島唄は唄かけによる遊び唄がほとんどであった。自然を読んだ唄もあるが、恋唄も多かった。ある日、薬砂糖を隠匿していたとし、役人が調べに来た際に「玉乳カチムリバ　染ダルヨリ　マサリ　ウシロ　カルガルト　イモレ　ショシラ」という歌で役人を追い返したという話が残っている。

### 笠利３区（金久）（かねく）※方言名：カネク

奄美大島北東部の太平洋に面した大笠利地区。大笠利地区は城前田、里前、金久の三集落で形成されています。集落行事は、地区の秋葉神社で年末年始の神前祭が行われ、旧暦6月17日の六月燈では三集落合同で踊りが奉納されます。また、現在の笠利中学校がある高台は赤嶺が丘（地元呼称ハンニャ）と呼ばれ、以前は集落が形成されていました。